

令和4年度 建設文教委員会行政視察報告書

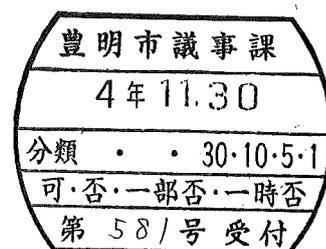
令和4年10月25日（火） 岐阜県瑞浪市
「スーパーエコスクール実証事業 瑞浪市立瑞浪北中学校の
取組について」

令和4年10月25日（火） 愛知県日進市
「小中併設校におけるメリット及び課題について」

令和4年10月26日（水） 愛知県瀬戸市
「小中一貫校におけるメリット及び課題について」

上記の視察項目について全委員の報告書を添付し報告とします。

建設消防委員会	委員長	服部 龍一
	副委員長	林 ゆきひろ
	委員	三浦 桂司
	委員	郷 右近 修
	委員	毛 受 明宏
	委員	近藤 千鶴



建設文教委員会行政視察報告書

服部 龍一

期 間 令和4年10月25日(火)、10月26日(水)

視察先 岐阜県瑞浪市 瑞浪北中学校

スーパーエコスクール実証事業 瑞浪北中学校の取り組みについて

愛知県日進市 日進市役所

小中併設校におけるメリット及び課題について

愛知県瀬戸市 にじの丘学園

小中一貫校におけるメリット及び課題について

岐阜県瑞浪市 瑞浪北中学校 スーパーエコスクール実証事業について

<開校日>平成31年4月

1.スーパーエコスクール実証事業を活用し、ZEB(ビルのエネルギー消費量正味ゼロである)を達成した学校施設を建設するに至った経緯、背景は。

⇒本校は、平成31年4月に3校が統合して新しく開校した学校で、統合を進めるにあたっては、「せっかく新しい学校を創るのなら、日本一の学校を創って欲しい。」との声上がり、文部科学省が実施していた「スーパーエコスクール実証事業」の採択を得ることになった。

2.学校施設建設に係るコストは。

⇒建築関係 3,645,412,560円

土地造成関係 844,407,153円

国、県補助金 1,319,271,996円(29.4%)

3.エネルギー消費量の削減状況は。

⇒2019.9~2020.8月期間 101%の削減

2020.9~2021.8月期間 97%の削減を達成

4.災害(大地震等)が発生した時のメリットは。

⇒体育館にクールハートトレンチや、太陽集熱ルーフの整備により、暑さ寒さを和らげる効果がある。一部のコンセントは太陽光発電システムからの給電により停電時も使用できる。

《所感》

瑞浪市においても、少子化が進み3中学校が統合され新しい中学校が建設されることとなったが、地元の木材をふんだんに使用し、自然の力を上手に利用したまさに「スーパーエコスクール」といえる学校施設である。次世代を担う生徒に対しても環境教育が徹底されており、生徒たちも生き生きと中学校生活を満喫しているように見えた。大変貴重な体験が出来た。

瑞浪北中学校の概要について

《経緯》

- ①平成22年3月18日 学区制審議会の答申
『日吉中学校と釜戸中学校と瑞陵中学校とを統合して新中学校を設置する』
- ②平成23年3月末日 中学校統合再編基本方針作成
- ③平成26年9月24日 文部科学省『スーパーエコスクール実証事業』の採択を受ける。
- ④平成27年4月16日～平成29年2月28日 校舎・屋内運動場建築基本設計・実施設計
- ⑤平成28年3月4日～平成29年9月30日 土地造成工事
- ⑥平成29年6月27日～平成30年12月28日 校舎・屋内運動場新築工事
- ⑦平成31年1月17日 竣工式

《開校日》 平成31年4月1日

《学校規模》 生徒数約350人 学級数13 (通常学級11・特別支援学級2)

《建設地》 瑞浪市土岐町973番地ほか (敷地面積 16,132㎡)

《建物概要》

① 校舎

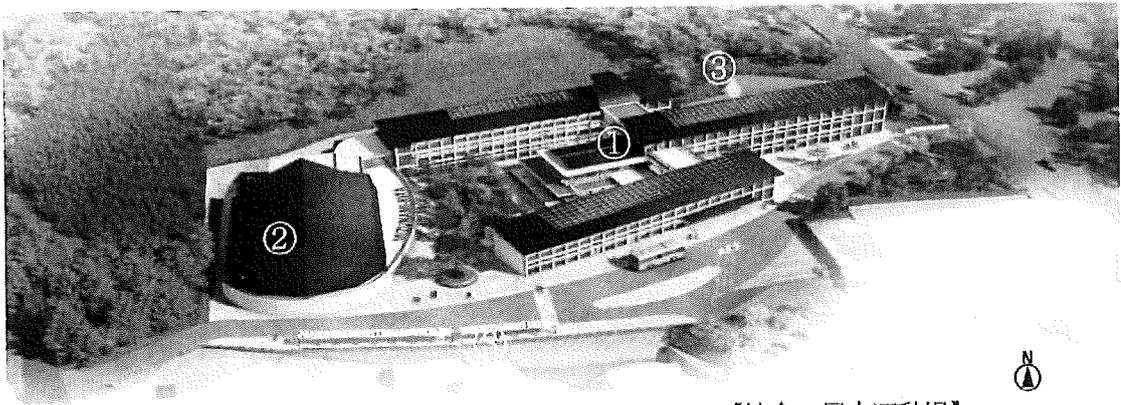
鉄筋コンクリート造 一部木造 地上3階
延べ面積 6,341㎡ 建築面積 約2,865㎡

② 屋内運動場 (武道場)

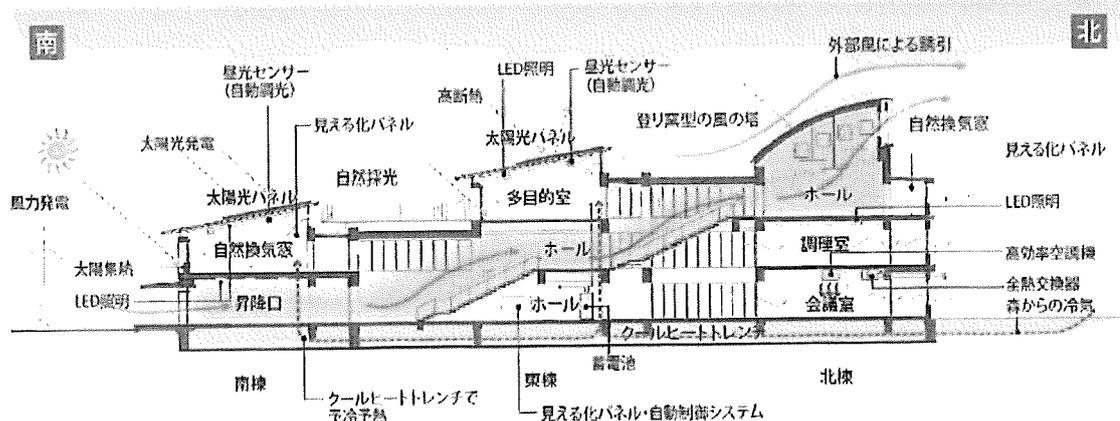
鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上2階
延べ面積 約1,598㎡ 建築面積 約1,595㎡

③ 付属施設

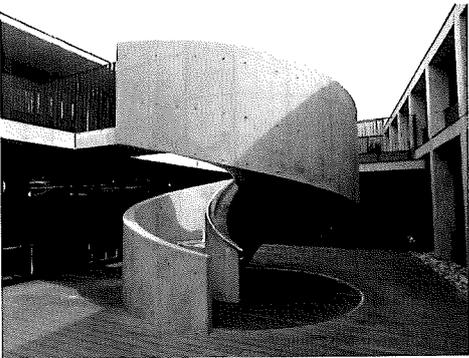
ポンプ室・駐輪場・プロパンガス庫
延べ面積 約151㎡ 建築面積 約112㎡



【校舎・屋内運動場】



【スーパーエコスクール整備手法イメージ図】



愛知県日進市 日進市役所 小中併設校におけるメリット及び課題について
＜開校日＞平成 25 年 4 月 日進北中学校、竹の山小学校

1. 今回計画に至った経緯

- ・当時竹の山地区では、区画整理事業が行われており、児童生徒とも増加し、区画整理地内に学校用地を確保し、小中併設型の分離新設校を建設することになった。

2. 今回計画の概要

- ・小中が同一敷地に建っている併設校（一貫校ではない）
- ・用地選定から開校まで 6 年
- ・総額約 52.3 億円

用地費 19 億 6 千万円

設計・建設工事 30 億 9 千万円

備品・消耗品 1 億 8 千万円

3. 併設校とした理由

- ・学校選択制ではない。
- ・日進北中学校は、香久山小学校区の一部生徒が入学する為。

4. 今回計画の特徴

- ・普通教室は各学年ごとに「学年ユニット」となるように計画しクラス数は将来の人口増を見越して確保している。
- ・児童、生徒、教職員の交流の拠点となる中庭「出会いの広場」が設けられている。
- ・小中それぞれに特別支援教室がある。
- ・屋内運動場は、体育館 1（大アリーナ）、体育館 2（小アリーナ）、武道場を設置
- ・プールは 1ヶ所 開閉式ガラス屋根付きで、使用可能期間を約 2ヶ月延長。
- ・グラウンドは、大、小の分割が出来一体での使用も可能。

5. 教育的な効果

- ・教員は、小中で情報共有がしやすく、お互いの授業を見る事が出来る。
- ・児童生徒が、廊下、運動場などですれ違うことが多いので、身近に感じられる。

《所感》

今回視察を行った他の 2 校とは違い、人口の増加により児童生徒数が増加しての開校である。小中併設という事で、小学校児童だけが併設の中学校に進学するのではなく、他の小学校からも進学してくるという変則型である。開校して 10 年を迎えるが、特に問題もなく、建設費において大きくメリットがあり、成功した事例と考えられる。



愛知県瀬戸市 にじの丘学園 小中一貫校におけるメリット及び課題について <開校日> 令和2年4月

1. 今回計画に至った経緯

・瀬戸市の特徴的な背景があり、市の中心市街地では児童生徒数の減少が加速化し、学校規模の格差が広がり教育環境にとって望ましくない状況が顕在化していた。また、学校施設の老朽化や、クラス替えが出来ない、部活動が出来ない等の問題もあった。そこで、小中一貫校整備モデル地区として「瀬戸の新しい教育環境創造への挑戦」が始まった。小学校5校、中学校2校が統合される施設となる。

2. 今回計画の概要

・平成28年より、新校舎建設に向けて、文部科学省の「小中一貫教育・学校施設の複合化計画・設計プロセス構築支援事業」に採択され、PTA,地区代表の参加するワークショップを開始し、2年間に及んだ。

・ワークショップのまとめ

- ① 敷地周辺の自然環境に調和した学校とする。
- ② 小中学校が一体的運営を可能とする施設環境を整備する。
- ③ 将来に向け、高機能で多様な学習環境を整備する。
- ④ 子ども・教職員・障害者などを性差なく多様な利用者にやさしい環境とする。
- ⑤ 地域と学校の共同関係を円滑に保てる施設環境とする。
- ⑥ 統合する7校の歴史伝統を継承する
- ⑦ 安心安全で、長い間、活用できる建築を目指す。

3. 施設の概要

- ・設計期間 平成29年5月～平成30年3月
- ・工事期間 平成30年5月～令和3年2月
- ・延床面積 15,629.12㎡
- ・建設総事業費：6,366,889,000円（税込）

〈内訳〉

造成費	411,910,000円
設計監理費	310,500,000円
校舎建設費	4,475,198,000円
体育館建設費	740,070,000円
その他建築費	271,605,000円
外構等	154,606,000円

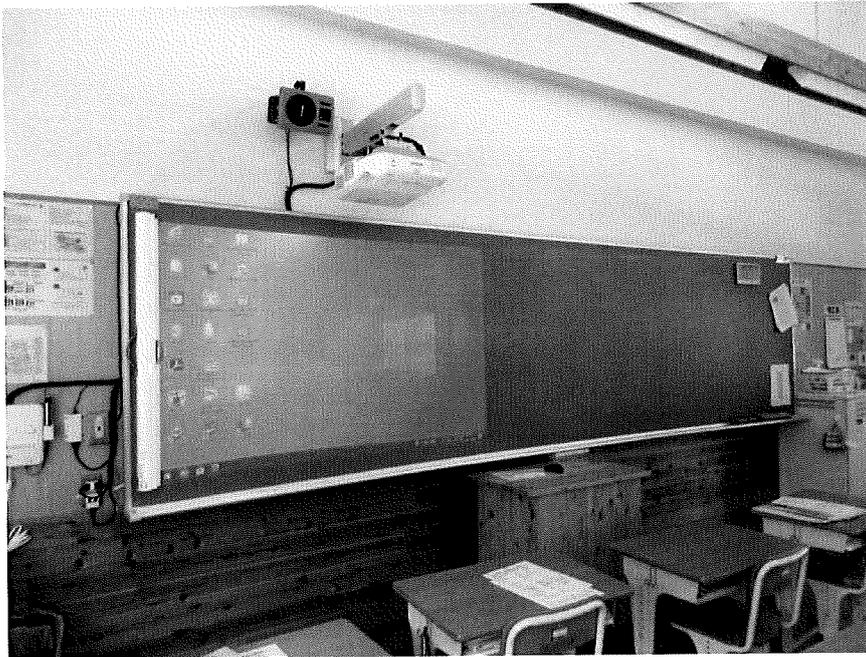
4. 施設の特徴とメリット

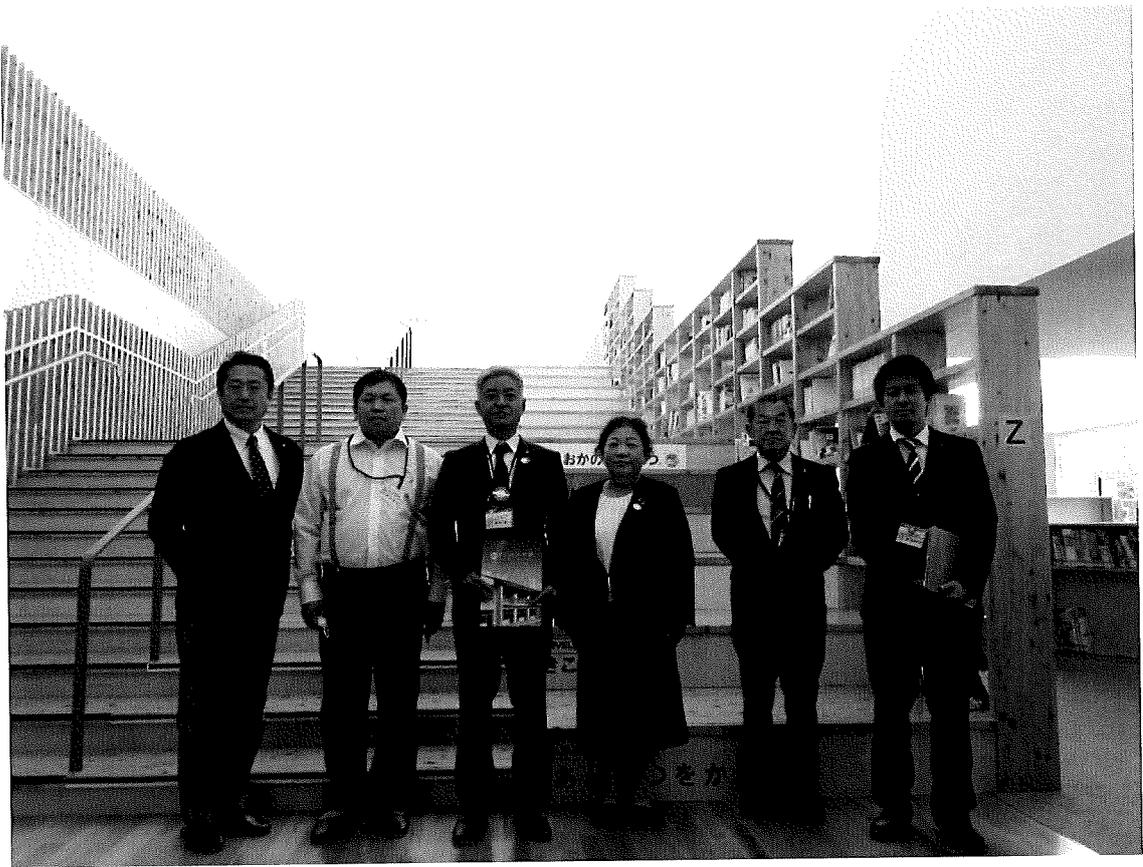
- ・遠隔地から通学する児童生徒の通学は、以前から運行されていた、名鉄バスのコースを変更するなど行って、通学に利用している。
- ・小中学校が一体となり、中学生が小学生児童に対し、優しく接するようになった。

《所感》

今回の施設は、少子化が進み小学校5校、中学校2校が統合された小中一貫校であり、9年間同じ施設を活用する点を生かし、前中後期（4・3・2）の3期間制を敷き、育成に切れ目なく取り組んでいる。焼き物の町をイメージして1階から2階までの動線を登り窯ステップと名付けた大階段で整備、学園を象徴する場所としてあらゆる活動場所となっている。

地元木材を内装、家具、サイン等随所に使い、木のぬくもりを感じられ自然を大切にする学びの環境としている素晴らしい施設であった。





建設文教委員会 視察報告書

林 ゆきひろ

岐阜県瑞浪市 (R4. 10. 25 視察)

瑞浪北中学校「スーパーエコスクール実証事業」について

1. 概要

瑞浪市では、少子化に伴い、生徒数が減少し、学校の統合再編を進めていました。今回視察した瑞浪北中学校は、市内3中学校を統合して新設し、特色として「施設のゼロエネルギー化」と「環境教育の推進」に取り組んでいます。

日本の学校施設で初めてZEB(Net Zero Energy Building)を達成し、初年度101%(2019年9月から2020年8月)、2年目で97%(2020年9月から2021年8月)という成果が出ており、文部科学省の「スーパーエコスクール実証事業」に認証されています。

(施設概要)

場所： 瑞穂市立 瑞浪北中学校 (岐阜県瑞浪市土岐町内)
開校： 平成31年4月
敷地面積： 16,132 m²
校舎延面積： 6,341 m²
学校生徒数： 約350名
学級数： 13学級(特別支援級2学級を含む)

2. 視察の所感

日本で初めてゼロエネルギーを達成した学校施設ということで、施設の至る所に環境への配慮が見られ、ポイントとなる箇所には、説明のパネルも設置されていました。

太陽光パネルと風力発電の『創エネ』設備をはじめ、『省エネ』設備は多数あります。例えば、断熱材の活用をはじめ、風の通り道を考えた登り窯型の自然換気、地下に空気を通して夏は冷やして冬は温めるというクールヒートトレンチ、太陽による自然採光をできるだけ利用できるような窓の位置、反射によって光を



説明パネル

取り込むライトシェルフ、できるだけ節電できるよう LED の人感センサー、太陽熱を利用して空気をあたたためて屋内に入れる集熱ウォール。施設の至る所に、こうした『省エネ』の設備を確認することができました。

そして、教室と外気の状態、エネルギーの消費量などを、日々確認できるエコモニターが各教室に設置されており、環境に関する情報を生徒自身が確認し、できるだけ環境に配慮した活動になるように一人一人が気を付けて行動しています。

こうした日々の活動の結果、初年度 101% (2019 年 9 月から 2020 年 8 月)、2 年目 97% ということで、『創エネ』と『省エネ』によってエネルギー消費をほとんどゼロにできていました。

国際条約パリ協定も発効され、日本も温室効果ガス排出の実質ゼロ、脱炭素社会に向けて、取り組む必要があり、各自治体も様々な取り組みが行われています。

本市でも、公共施設が老朽化してきており、更新時期がきていますが、こうしたタイミングで、環境に配慮した施設の更新にも努める必要があると考えます。今回視察した様々な環境を配慮した施設の構造、環境配慮の工夫を学び、本市でも参考にできると思いました。



愛知県日進市 (R4. 10. 25 視察)

「小中併設校におけるメリット及び課題」について

1. 概要

日進市では、区画整理等もあり、児童生徒数が急激に増加し、学校を建設する必要がありました。今回視察した小中併設校（日進北中学校・竹の山小学校）では、中学校に別の小学校区の一部の生徒が入学することや、保護者・児童生徒が学校を選ぶ学校選択制ではないため、小学校中学校が同一敷地に建っている小中併設校を新設することとしました。

(施設概要)

場所：	日進市立 日進北中学校・竹の山小学校 (愛知県日進市竹の山4丁目)
開校：	平成25年4月
敷地面積：	約40,000㎡
校舎延面積：	約20,000㎡
中学校生徒数：	約450名
中学校学級数：	17学級(特別支援級3学級を含む)
小学校児童数：	約500名
小学校学級数：	20学級(特別支援級4学級を含む)

2. 視察の所感

今回は、実際の現地視察ではなく、市役所にて写真を見ながら、詳細に説明を頂きました。小学校と中学校の併設校ということですが、小学校と中学校とで1コマあたりの時間が異なるのでチャイムが鳴らせないことや、教室配置で子どもたちの動線も考え、基本的には分けて動けるように対応しており、運営が難しいようなところも見られました。

しかし、小中の教員間での連携、情報共有がしやすくなったことや、小中でお互いの授業を見ることも容易にできるとのことで、小学校から中学校まで連続して教育を効果的に実施できるとの説明もありました。また、小中合同であいさつ運動を実施したり、様々な行事で小中の交流を行ったりすることで、中1ギャップを解消させる効果もあるとのことでした。

豊明市では、適正配置の関係で、今後、三崎小学校、豊明中学校、図書館の一体で整備を行う計画があります。その際には、小中一貫校、小中併設校なども、検討する必要があると思います。今回の日進市での取り組みを参考にしながら考える必要があると感じました。

愛知県瀬戸市 (R4.10.26 視察)

にじの丘学園「小中一貫校におけるメリット及び課題」について

1. 概要

瀬戸市では、学校の適正規模について平成15年から検討を始めていました。児童・生徒数の減少、学校施設の老朽化なども考え、地域の方や保護者、関係者等との意見交換を繰り返し行い、小学校5校と中学校2校を統合して、今回視察した小中一貫校の「にじの丘学園」を新設することとしました。

(施設概要)

場所：	にじの丘学園	(愛知県瀬戸市中山町内)
開校：	令和2年4月	
敷地面積：	82,344.69 m ²	
校舎延面積：	15,701.46 m ²	
児童生徒数：	約1000名	

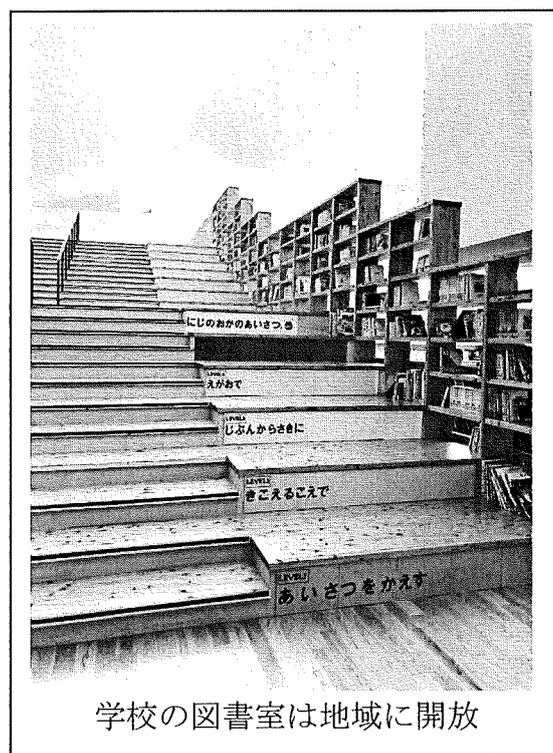
2. 視察の所感

地域の方々や、保護者、先生、子どもたちなど、様々な方々の意見を聞きながら、みんなで創ってきたと思えるような工夫が多く見られました。

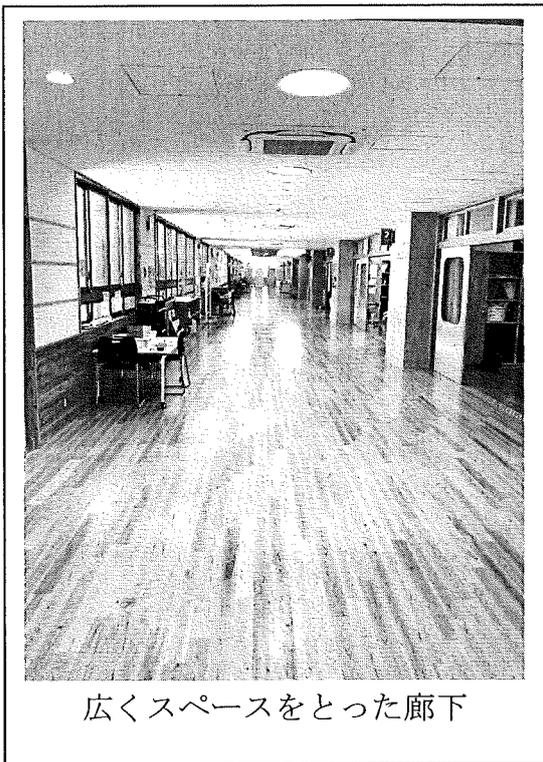
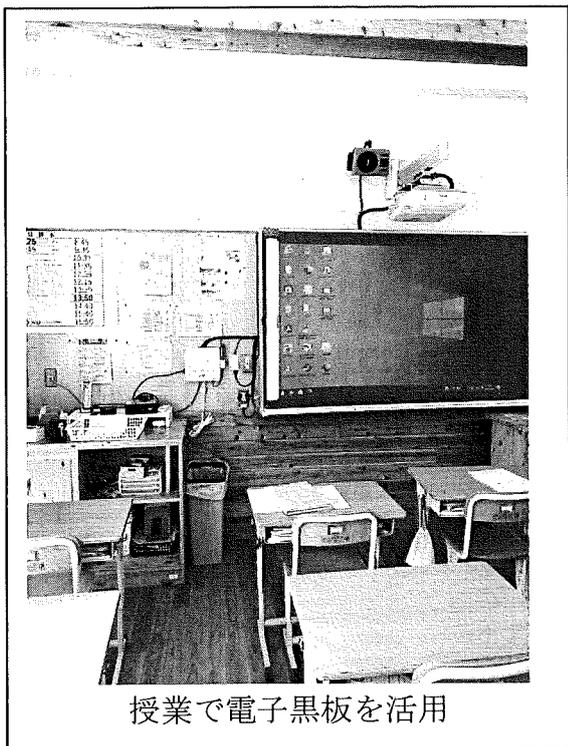
例えば、校内の図書館は地域に開放され、各教室には電子黒板も設置、廊下は広くとってワークスペースとしても活用できるようになっています。また、登り窯の階段や、入り口にエコモニターもあり、環境に配慮された構造も見られました。

教育的効果としては、階段や中庭などで小学生と中学生の交流が見られ、先生方から、中学生が穏やかになった、上の学年の子が年下の子に優しくなったなどの意見があったとのこと。さらに、小学校中学校での先生同士の交流もあり、中学校の先生が小学生に理科の授業を行うなど、切れ目のない教育環境が提供できているとのことでした。

豊明市においても、小中一貫校や小中併設校を検討する際には、こうした瀬戸市の取り組みが参考になると感じました。



学校の図書室は地域に開放



10月25日(火曜日)～10月26日(水曜日) 2日間

10月25日火曜日 午前10時～12時

場所 : 岐阜県瑞浪市 瑞浪市立瑞浪北中学校 現地視察

目的 : スーパーエコスクール実証事業 瑞浪市立瑞浪北中学校の取り組みについて

参加者 : 三浦桂司 服部龍一(委員長) 林ゆきひろ(副委員長) 毛受明宏 近藤千鶴 郷右近修
随行議事課係長 寺島慎二

委員会として事前に提出した質問事項について

1、スーパーエコスクール実証事業を活用して、ZEBを達成した学校施設を建設するに至った経緯、背景は。

(回答)

平成31年4月に3校が統合して新しく開校した学校で、新設するにあたり地元や保護者の理解を得るため、大変苦勞しながら進めてきた。せっかく新しい学校を創るのなら、日本一の学校を創ってほしいとの地域の声があり、文部科学省が実施していた「スーパーエコスクール実証事業」の採択を得ることが出来た。

2、国・県からの補助金

(回答)

別紙参照

3、学校施設建設にかかるコスト及びランニングコスト

(回答)

ランニングコスト、R3年実績

電気: 92,431kwh/年(約4,000千円)

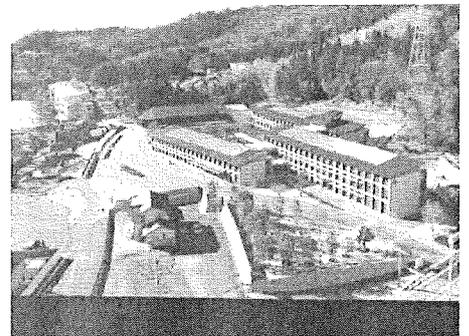
ガス: 1m³/年(理科室のみ)

監視装置等保守料(約1,800千円)

※太陽光発電の余剰売電量 81,535kwh(約1,250千円)

4、エネルギー消費量の削減状況

(回答)



2019年 101%削減

2020年 97%削減

5、太陽光パネルなどの創エネ設備にどのような設備を導入したか

(回答)

太陽光発電システム120kw(蓄電システム20kwh)

風力発電 1、1kw

6、換気設備、空調設備の運用はどうしているか

(回答)

各教室に設置された「エコモニター」により室内温度・湿度などの情報を確認し、生徒が判断して操作している。

7、新たに教育重点校に指定するなど瑞浪北中学校の位置づけは

(回答)

特別な位置づけは行っておらず。

8、生徒の環境教育にどのように取り組んでいるのか

(回答)

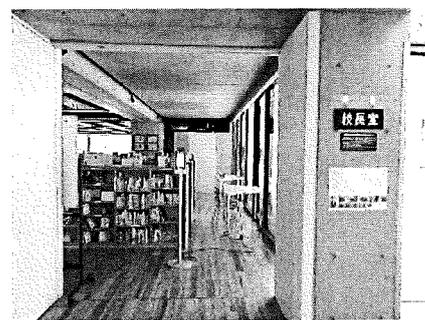
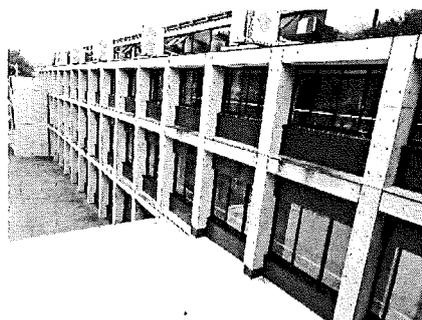
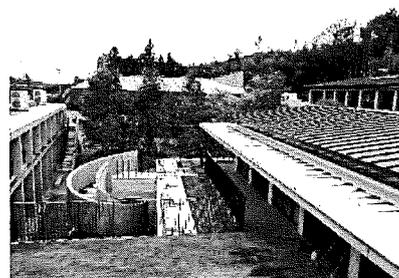
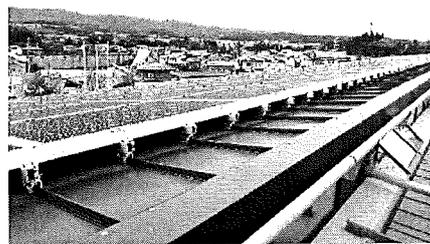
各教室に「エコモニター」を設置して、教室内の温度・湿度などの情報を確認して、生徒が操作マニュアルを作成して、さまざまな仕組みや使い方を授業をしなくても、学校生活の中で自然に学べるようにしている。

教育委員会と名古屋市立大学芸術工学研究科とで、環境教育における連携の覚書を締結して、データ分析や生徒に米取り組みの方向性についてアドバイスを受けている。

9、災害(大震災等)が発生したときのメリット

(回答)

体育館においても、クールヒートトレンチや太陽集熱ルーフを設備、暑さ寒さを和らげる効果がある。一部コンセントは太陽光発電の給電により、停電時にも使用できるようになっている。



10月25日(火曜日) 14時~15時30分
日進市立竹の山小学校・日進北中学校へ移設について

場 所 : 愛知県日進市 日進市役所5階

目 的 : 小中併設校におけるメリット及び課題について

参加者 : 三浦桂司 服部龍一(委員長) 林ゆきひろ(副委員長)

毛受明宏 近藤千鶴 郷右近修 随議事課係長 寺島慎二

委員会として事前に提出した質問事項について

1、小中併設校を新設するに至った経緯・背景は。

(回答)

竹の山地区では区画整理が行われていて、児童生徒の増加。区画整理内で学校用地を確保、小中併設型の分離新設校を建設するに至った。

2、小中併設校の教育的効果は。

(回答)

教員は、小中で情報共有がしやすく、お互い授業を見ることが容易になるメリット。廊下ですれ違う事が多く、身近に感じられる。コロナでイベントが縮小、小中合同あいさつ運動を実施。

3、通学方法、通学時間に変化は。

(回答)

徒歩のみで変化なし、開港前と比較して通学時間が短くなった。

4、部活動で、小中が一緒に活動することはないか。

(回答)

一緒に活動はない、体育館やグラウンドは共有しているので、練習場所確保はメリットである。

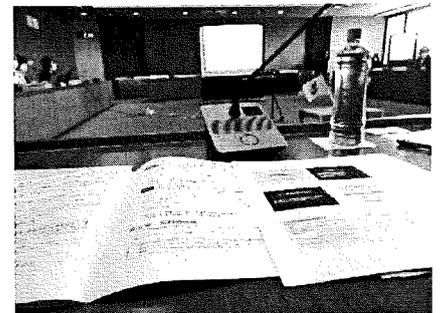
5、小中併設となり、小学生から中学生への気持ちの切り替えは出来ているか。

(回答)

一貫校ではなく、併設校のため小学生と中学生の学校生活における動線はわかれている。中学校エリアもあるので、切り替えは出来ている。

※初代の校長は、学生時代の同年であり、話は聞いていたが、

併設校について内容を公式に聞いたのは初めてだった。



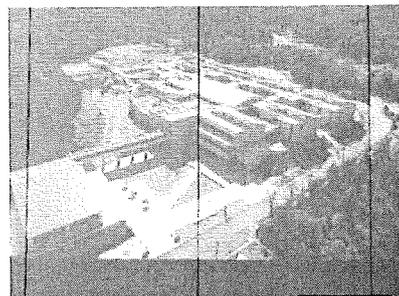
10月27日(水曜日) 瀬戸市にじの丘学園 現地視察 午前10時～12時

場所 : 瀬戸市立にじの丘小学校、にじの丘中学校 現地視察

目的 : 小中一貫校

参加者 : 三浦桂司 服部龍一(委員長) 林ゆきひろ(副委員長)

毛受明宏 近藤千鶴 郷右近修 随議事課係長 寺島慎二



にじの丘学園にて質疑、その後現地視察

コロナ渦で、合同挨拶運動をした。合併による不安→理解→協力へ

協働型課題解決能力を磨くことを心がけ、応用力、対応力を養う、にじの架け橋

令和2年2月に完成、小学校5校、中学校2校が一つになった小中一貫校である。

教育アクションプランの基づき、切磋琢磨しながら学び行く力を育成して未来志向型の学校を目指し建設した。

委員会として事前に提出した質問事項について

1、中学校2校と小学校5校を統廃合して、小中一貫校の設立に至った経緯・背景は。

(回答) 少子化の進展による、児童・生徒の減少で学年が1クラスしかなくクラス替えもできず、適正規模が保てなくなった。

2、統廃合にあたり、地域住民とどのように合意形成を図ったか。

(回答) 子どもや保護者の7割が通学路を心配した。ワークショップを重ね、交通安全プログラムを作るなどして、関係者が実際に歩いて、危険個所の点検をした。粘り強く何度も話し合いを重ねて合意していただいた。

※コミュニティースクール準備委員会を設置

3、廃校になった学校の跡地利用

(回答) 売却できたものと、そうでない学校もあり、すべては売却できていない。

4、遠隔地に住む生徒の通学方法及び通学時間は。

(回答) 小学校4キロ、中学校6キロを超えている児童・生徒はいない。またバス通学にして、定期を発行して名鉄バス定期券を市が負担している。

5、部活動において、小中学生と一緒に活動することはあるか。

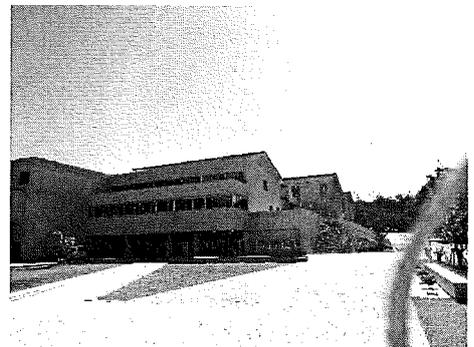
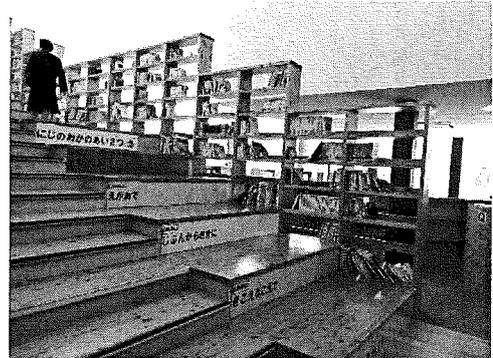
(回答) 授業のコマも違い、一緒に部活動はしていない。

6、小中一貫校となり、小学生から中学生への気持ちの切り替えは出来るか。

(回答)今のところ順調に推移している。在校生の制服は今まで通りのものを使用している。

7、中学校から私立中学へ進学する生徒の対応は。

(回答)特別な対応はなく、問題は生じていない。



2022年11月30日 郷右近修

○瑞浪市 瑞浪北中学校

自分が提案した視察先が採用された為、参考になったことがいくつもあった。もともと感染症予防を見据えた場合、公共施設の換気設備が整備されていないので、熱交換型換気設備を設置・運用し、換気と省エネルギーを両立させている事例を探しているのだが、公共施設(特に学校)の省エネルギー化と太陽光発電設備を設置することによって、実質の二酸化炭素排出量を零にする(近づけてゆく)例があると知ったので、当該中学校の視察を希望した。

豊明市で公共施設の省エネルギー化を展望すると、これから小中学校の大規模改修を予定しているため、校舎等の省エネルギー化に取り組むチャンスになる。ただ、当該中学校は統廃合により校舎などを完全に新築しているためそのことはよく踏まえられないと考えると考えた。

まず、「せっかく統廃合するなら日本一の学校にしてほしい」という住民の意見を汲んだことから、国の ZEB 認定に叶う学校にすることを企画・設計段階から基本に据えていることが全てと感じた。他の学校に対し特別な位置づけ(優劣)は当然ないということだったが、熱意の水準が既存の学校の大規模改修のそれとはまったく異なる。熱や空気の動きを利用するために校舎内部の形状や天井の高さを複雑に設計していることなどは豊明の大規模改修に活かすのはほぼ無理と感じた。

一方、大いに参考になりそうなこともあった。北側(を高くして)から採光したり、南側の窓に反射板を付けたりして、「明るいが暑くならない」設計をしていること、冬はストーブを活用することからエアコンの室外機を北側にして冷却に有利にしていること、生徒・職員の心地よさや断熱の効果から木材を多用していることは豊明市の大規模改修にも活かせると感じた。また、趣旨が異なるが通路や校舎に可動仕切りを設け、休日に市民が施設利用できるようにしている点も良い点と感じた。そういった点を市に提案してゆきたい。

○日進市 竹の山小学校・北中学校 併設校

小中学校の併設校という位置づけで適正規模等検討委員会が事業を進めたということだった。県内に参考事例が当時はなかったこともあってか、手洗い場や教室をマンションのモデルルームのように、一部分でも新設校を体験できる工夫をしていた。こどもと保護者が併設校を理解することをまじめに考えているようには思った。

運営の面では敷地が広いのでその管理に費用がかかることや瀬戸市の一貫校とはことなり徒歩の通学なので見守りの活動にあたっている方との連携が大変なことは実施した当事者の経験としてよく踏まえるべきと感じた。図書館での小中学校の交流がよく、読み聞かせなどの経験を通じて中学生の性質が穏やかになっているということだった。これは併設校ならではの特徴なので豊明市で今後、議論になるときの材料にしようと思った。

○瀬戸市 虹が丘学園

既存の学校が統廃合された小中一貫の新設校で、敷地も校舎も規模は大きいと感じた。学区が広くバスによる通学になっていて、統廃合については無理があるのではないかと思うが、統廃合前の学校は学年1クラス、もしくはそれも難しいくらい小規模で中学だと野球部すら成立しないような状況ということだったので、そういった事情は理解したい。

新設校ということでやはり校舎のつくりは1970年代の学校とは次元がちがうと感じた。採光の工夫や調整が可能なLED照明などは豊明市の大規模改修の参考になるし、床の自動掃除ロボット(レールや溝がないから使えるのだろう)を活用し、Wi-Fiを無理なく設置している様子はこれからの学校の様子を知る良い機会になった。授業の運営については小学校の高学年の授業の一部を中学校の先生が担当することで一貫校の条件を活かしているということだった。こどもが先生に対して適応するストレスを軽減することになると思うが、学力の向上という点については今後も良く実情を掴みつつきたい。

建設文教委員会行政視察報告書

毛受明宏

日程:令和4年10月25日火曜日 岐阜県瑞浪市 瑞浪北中学校

スーパーエコスクール実証事業 瑞浪北中学校の取り組みについて

令和4年10月26日火曜日 愛知県日進市 日進市役所

小中併設校におけるメリット及び課題について

令和4年10月27日水曜日 愛知県瀬戸市 にじの丘学園

小中一貫校におけるメリット及び課題について

【岐阜県瑞浪市瑞浪北中学校】

平成31年4月に市内3校が統合し、新しく開校した中学校で「せっかく新しい学校を創るのなら、日本一の学校を創って欲しい。地域より要望を受け、文部科学省が実施の「スーパーエコスクール実証事業」採択される。



《今回の瑞浪市瑞浪北中学校では》

- ・地域の声を聞いて建設に動いたのは瑞浪市として素晴らしい功績と感じた。
- ・登り窯型の自然換気は地形と地元の文化を生かした形として受け止めるが、結果的に現在の新

型コロナ禍の換気にも役立っている。自然換気については豊明市においても学校環境として今後も重要な課題となり、今回を参考としていきたい。

【愛知県日進市日進市市役所】



小中併設校に至った経緯としては、日進市北部にて開発される竹の山地区の区画整理事業が行われ、児童生徒ともに増加の見込みで、区画整理地内に新しく学校用地を確保し、小中併設型の分離新設校を建設すること至る。

質疑をした、小学校 1～6 年、中学校 1～3 年の期間に子ども達の友人との人間関係については、子ども達が多い分いろんな環境や状況には十分に考えて対応をしている。一つのひとつ環境をしっかり見ていきたいが、そのような不具合な問題もないとは限らない。

【愛知県瀬戸市にじの丘学園】



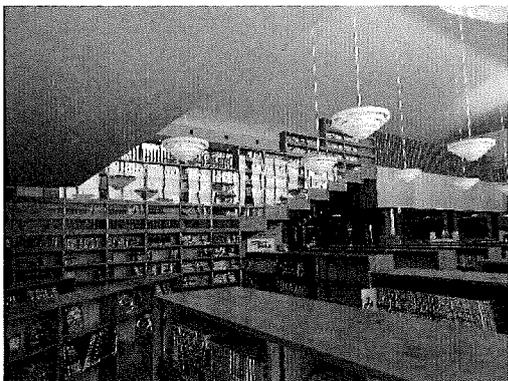
瀬戸市には特徴的な背景で、市の中心市街地では児童生徒数の減少が加速化し、学校規模に格差が広がり、子ども達の教育環境にとって望ましくない状況が顕在化していた。他には学校施設の・老朽化・クラス替えが困難・部活動の環境問題、そこで小中一貫校整備モデル地区として「瀬戸の新しい教育環境創造への挑戦」が始まり、小学校5校、中学校2校が統合される経緯となり、平成28年新校舎建設に向けて、文部科学省の「小中一貫教育・学校施設の複合化計画・設計プロセス構築支援事業」に採択され、PTA,地区代表の参加するワークショップを2年

間に及び開始。

ワークショップのまとめとしては

- 1 敷地周辺の自然環境に調和した学校とする。
- 2 小中学校が一体的運営を可能とする施設環境を整備する。
- 3 将来に向け、高機能で多様な学習環境を整備する。
- 4 子ども・教職員・障害者などを性差なく多様な利用者にやさしい環境とする。
- 5 地域と学校の共同関係を円滑に保てる施設環境とする。
- 6 統合する7校の歴史伝統を継承する
- 7 安心安全で、長い間、活用できる建築を目指す。

そして現在の開校に至る



経緯と市と施設見学にて、瀬戸市の環境として、中心市街地には昔ながらの古い街並みに流入者の増は見込めないのは、以前から感じている。そして新しいアクションを起こそうとしても用地の確保など課題も大きく今回の校舎建設地がピックアップされたのかと思う。

学校環境としては、子ども達が伸び伸びと成長するに相応しい間取りをもった学校と感じた。

10月25日(火)

【瑞浪市】スーパーエコスクール実証事業

瑞浪市立瑞浪北中学校の取り組みについて。

・瑞浪北中学校の概要について

経緯 平成22年3月28日 学区制審議会の答申

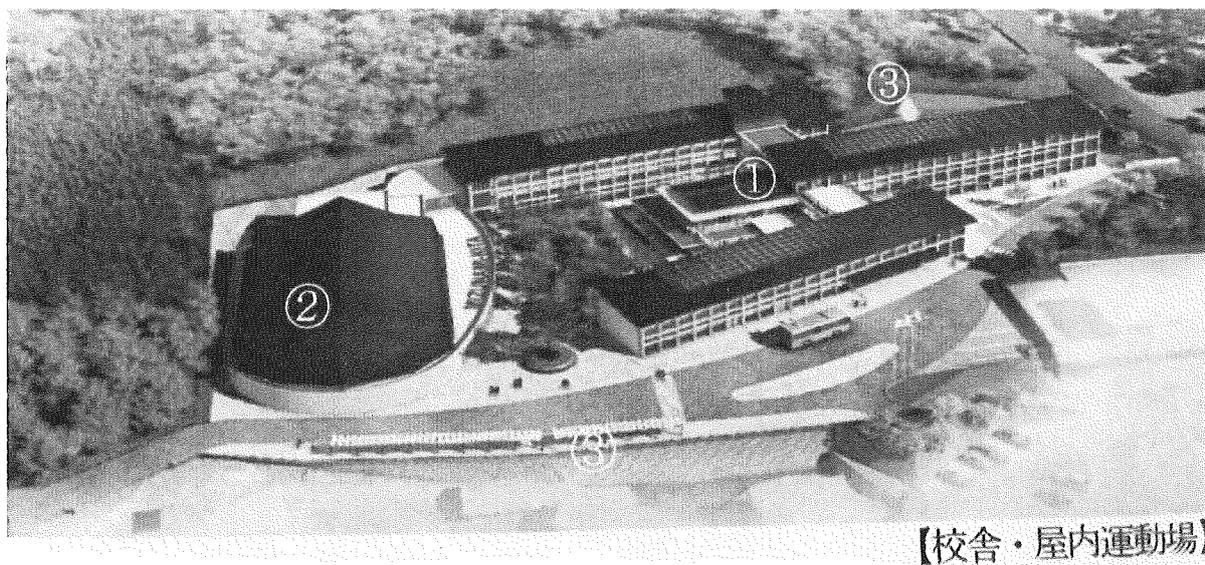
平成26年9月24日 文部科学省「スーパーエコスクール実証事業」採択を受ける

平成27年4月16日～平成30年12月28日 設計、土地造成工事、校舎工事

平成31年1月17日 竣工式

背景

平成31年4月 3校が統合して、新しく開校する学校で統合を進めるにあたり地元より「せっかく新しい学校を創るなら日本一の学校を創って欲しい」との声があり、スーパーエコスクール実証事業採択を得ることができた。



まとめ

- ・生徒への環境教育は各教室に「エコモニター」を設置し、生徒が判断し操作することやマニュアルを作成し、普段の学校生活の中に自然に学べるようにしている事で生徒さんの環境意識が身に付いていくと感じました。そして、家庭・地域においても環境を常に意識できるようになると思います。
- ・コロナの拡大が始まってからも「エコモニター」があったので特別な対応をすることが無かったそうです。
- ・本市においてスーパーエコスクールのような環境で学べると、環境教育を自然に学ぶことが出来ると思います。しかしながら、本市にそのまま取り入れる事は難しい状況と考えます。しかしながら、生徒に環境教育の充実を推進できるように出来る事から学んでいけるよう考えたい。

10月25日（火）

【日進市】小中併設校におけるメリット及ぶ課題について

経緯・背景

当時、竹の山地区では児童・生徒ともに増加し対応の必要があった。

- ・区画整理地内に学校用地を確保し、小中併設型の分離新設校を建設することになった。

併設校にした理由

- ・学校選択制ではない。
- ・日進北中学校は香久山小学校区の一部生徒が入学するため。

併設校にメリット

- ・中1ギャップがない。
- ・中学生が優しくなった。
- ・教員は小中で情報共有がしやすく、お互い授業を容易に見る事ができる。

課題について

- ・令和7年度以降、区画整理事業や宅地開発等による人口変動が予想されるため人口移動の動向に注視が必要。
- ・市内に大規模校と小規模校があるため、教育環境に格差が生じないように必要な措置が必要

まとめ

- ・日進市は年々人口増加があり、教育委員会として3年ごとに人口変動の多い地域から検討委員会で協議しているそうです。
- ・併設校ではないが令和5年・6年にも学区の変更が決定している地域があるそうです。
- ・本市においては、将来豊明中学校の立て直し時に周辺の開発が予測されるので小中併設と言うのも検討のひとつとして考えてほしい。

10月26日（水）

【瀬戸市】小中一貫校におけるメリット及び課題について

経緯 平成26年5月 瀬戸市立小中学校 PTA 連絡協議会が「適正規模適正配置の推進を求める要望書」を提出。

平成28年8月 瀬戸市小中一貫校施設整備委員会設置。

平成29年6月 瀬戸市小中一貫校開校準備委員会設置。

令和2年1月 建設工事完成

令和2年4月 開校

一貫校のメリット

- ・9年間の切れ目のない教育の取り組みでキャリア教育、国際教育、地域教育の推進ができる。
- ・小・中の長い放課を同じ時間にしてあるので交流を深める事ができる。
- ・職員室が1つなので打合せがしやすい。

課題について

- ・統合して使用しなくなった小学校の活用が未だ未定のままである。
- ・開校より児童数の増加が多く、将来教室不足が心配である。



まとめ

- ・少子化に伴い中学校2校と小学校5校を統廃合するには様々な問題が生じたと推測する。
- ・地元の方、保護者の方からは通学路がどうなるかが一番心配だったそうです。その対策として地元の方と予定する通学路を歩き危険箇所が見つければすぐに改善したそうです。
- ・統合に向けて地域、保護者の方が児童生徒のために検討を重ねられたのはとても素晴らしいと感じました。
- ・本市においても児童生徒のため地域の方は協力いただいておりますが、これからもさまざまな問題に地域ぐるみで取り組んでいただけるよう検討していただきたい。